

重点取組分野	令和 元 年度		総括	重点取組分野	令和 2 年度		総括	重点取組分野	令和 3 年度		総括	
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果		
豊かな心	①道徳的価値について自分事として考えたり、話し合ったりすることで、理解を深めるような道徳科の授業の充実を図る。②たてわり班での活動を毎月設定し、様々な人と豊かなかかわり合いを通して、相手のことを尊重したり、思いやりしながるとともに生きていこうとする態度を育てる。	②今年度よりスタートしたたてわり活動では、学年を超えた子ども同士のつながりに広がりが見られるとともに、6年生のリーダー性をはじめ、各学年がそれぞれに応じた役割を果たそうとする姿勢が育ってきている。	A	豊かな心	①たてわり活動では、各学年の役割を意識して活動内容を計画したり、指導や支援を行ったりする。また、たてわり活動と他の行事との連携を明確にする。②学校行事や60周年記念事業に向けた取組を工夫し、様々な人と目標を共有し、主体的・協働的に取り組む中で、他者を思いやる心を育てる。			豊かな心	c1			
生きてはたらく知	①朝モジュール学習やチームティーチング、少人数授業等を効果的に取り入れ、基礎・基本の定着を図る。②生活科、総合的な学習の時間を中心に重点研究に取り組み、主体的に問題解決していく力を育成する。③学校行事を見直し、各活動で育てたい力を系統的に考えた年間計画を作成する。	②子どもたちが自分の気付きや考えを表現し、学び合う姿が見られた。基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着については、個人差も大きく、子どもたち一人ひとりの学習状況をいねいに把握し、個に応じた指導の充実を図っていく必要がある。③育てたい力を元にした学校行事の見直しを図られた。	B	生きてはたらく知	①朝モジュール学習の計画的な実施や少人数授業やチームティーチング等の効果的な場面を吟味した計画的な実施により、基礎・基本の定着を図る。②重点研究を中心に、子どもたちが主体的に問題解決に取り組む力を育てるとともに、同じように他教科でも資質・能力を育てることを意識したカリキュラムの作成や授業改善を図る。			生きてはたらく知	c2			
健やかな体	①体育学習の充実に加え、休み時間を利用した運動月間の取組等の活動を通して、体を動かすことの喜びや楽しさを知り、生活の中で運動を取り入れようとする態度を養う。②学校保健委員会の活動などを通して、子どもたち自ら健康に過ごすためにできることを考えたり実践したりする力を養う。	①具体的な取組を通して、子どもたちは健康への関心が高まり、積極的に体を動かそうとする児童が多くなっている。②学校保健委員会が中心となり、健康を維持するための日常的な取組の啓発や実践、振り返りがなされ、子どもたちの理解が深まった。	A	健やかな体	①体育学習の充実や休み時間を利用した運動への取組を進め、子どもたちの運動への意識と意欲を高める。②子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けられるようにするとともに、病気やけがの予防等に向けた環境の改善、各学年に応じた具体的な指導を継続的に進める。			健やかな体	c3			
特別支援教育	①特別支援教育にかかわる児童の情報を全職員が共有し連携を深め、特別支援教室の充実を図る。②職員研修を通して特別支援教育に関する理解を深め、学習環境や授業についてのユニバーサルデザインを推進する。	①特別支援教室や特別支援教育支援員による支援の充実を図ってきた。保護者への理解が進み、児童や保護者のニーズが高まる一方、時間や支援員の確保などが課題となっている。	B	特別支援教育	①特別支援教室の充実が図れるよう、人的配置を行うとともに、担任、専任、指導者の一層の連携を図る。②職員研修を計画的に進め、特別支援教育に関する理解を深め、学習環境や授業についてのユニバーサルデザインを推進する。			特別支援教育	c4			
児童生徒指導	①「当たり前3カ条」について学校と家庭が共通理解を図りながら児童指導を推進する。②職員会議内に児童理解の時間を設定し、全職員で児童の状況や指導の方針について共通理解を図る。	①校内では進んで挨拶をする児童も多く見られるが、見守りの方にきちんと挨拶ができないといった声も見受けられる。時と場に応じた挨拶ができるよう、具体的かつ継続的な指導を進める必要がある。②定期的な時間の設定により、児童理解や課題の共有が図られ、指導に生かすことができた。	B	児童生徒指導	①「当たり前3カ条」について学校と家庭が共通理解を図りながら児童指導を推進する。特に「あいさつ」については、あらかじめ教職員の意識をそろえて、学校全体で具体的な指導を行っていく。②チャイムのあり方を見直し、子どもたちが自ら時間を意識して行動できるようにする。③児童理解についての情報共有の場を確実に設定して生かすことができた。			児童生徒指導	c5			
地域連携	①学校評価を見直し、児童や保護者、地域の思いを受け止めたり次の活動に生かしたりすることができる体制づくりを進める。②ホームページや学校だより等を活用し、教育活動の情報を積極的に発信して保護者や地域の力や協力を得られるようにする。	①行事ごとに保護者や地域向けのアンケートを実施し、適宜、振り返りや改善点を整理することで、次の活動に生かすことができた。②子供たちの日常の姿、具体的な取組の様子などを見ていただける機会を年間おなかにバランスよく設定するとともに、積極的に発信していくことも必要である。	B	地域連携	①学校評価を見直し、児童や保護者、地域の思いを受け止めたり次の活動に生かしたりすることができる体制づくりを進める。②ホームページや学校だより等を活用し、教育活動の情報を積極的に発信して保護者や地域の方々の理解や協力を得られるようにする。			地域連携	c6			
自分づくり	①地域行事に協力したり児童や職員が積極的に参加できるようにしたりする。②生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域で体験的に学び機会を積極的に設け、他者とのかかわりの中で一人ひとりの自尊感情を高めるようにする。	②生活科や総合的な学習の時間において、様々な地域の方々や施設、機関と積極的に関わりながら学ぶ場を取り入れることで、子どもたちは身近な材や人とのかかわりを通して改めて地域を見つめたり大切に思ったりする気持ちを高めることができた。	A	自分づくり	①生活科や総合的な学習の時間において、地域の方と関わったり、体験的に学んだりする機会を積極的に設け、地域を愛する気持ちや参画する意識、協調性を育む。②様々な「人」との関わりの中で学ぶ場を大切にすることで、他者や自己を意識したり理解したりすることができるようにする。			自分づくり	c7			
安全管理	①危機管理マニュアルを常に見直しながら、事件・事故や災害発生時に適切で迅速な対応ができるように、職員研修や訓練等の充実と保護者への周知を図る。②学校施設の安全、維持管理のために月1回の点検と改善を行う。	①安全な施設、設備の維持・管理を進めるとともに、日ごろの危機管理体制や警報や注意報発令時の対応の見直しを随時行ってきた。また、児童の登下校時の見守りを強化し、より多くの方により見守りを進めるための学援隊の発足準備を進めた。	B	安全管理	①危機管理マニュアルを常に見直しながら、事件・事故や災害発生時に適切で迅速な対応ができるように、職員研修や訓練等の充実と保護者への周知を図る。②防犯や防災、交通事故等について、計画的かつ継続的に各学年に応じた具体的な指導を行う。			安全管理	c8			
いじめへの対応	①毎月の職員会議で児童指導上の情報を全職員で共有するとともに、年2回の児童アンケートを実施し、いじめの未然防止と早期対応に努める。②月1回いじめ防止対策委員会を実施し、全職員に向けていじめ防止に向けた意識を高めるとともに、認知された案件の経過確認を行い再発防止に努める。	①児童指導上の情報を定期的かつ必要に応じて適宜、場を設けて共有することで、いじめやいじめにつながる事案への早期発見、早期対応に組織的に取り組んだ。②児童アンケートだけでなく、日々の子供たちの様子を注意深く見とり、いじめの芽を摘み取る職員の意識とスキルを一層高めようとする必要がある。	B	いじめへの対応	①毎月の職員会議で児童指導上の情報を全職員で共有するとともに、年2回の児童アンケートを実施し、いじめの未然防止と早期対応に努める。②月1回いじめ防止対策委員会を実施し、全職員に向けていじめ防止に向けた意識を高めるとともに、認知された案件の経過確認を行い再発防止に努める。			いじめへの対応	c9			
人材育成・組織運営(働き方改革)	①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、日々の指導における必要感に基づいた研修を行い指導力の向上を図る。②6年次以上の教職員がメンターチームの指導にかかわることによってミドルリーダーの育成を進める。③情報端末機器の活用により情報を共有し会議時間の短縮を図るとともに、学校評価アンケートに電子申請や	①メンター研修の計画的に実施と内容の充実が図られ、日々の授業に生かすことができたが、クラス間の学習進度の違いに対する不安や更なる授業改善を期待する声も多い。学年間の連携、研修・研究の充実を図り、指導力の向上を目指す。③保護者向けアンケートの電子化を進め、回答率の向上と集計作業の効	B	人材育成・組織運営(働き方改革)	①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、日々の指導における必要感に基づいた研修を行い指導力の向上を図る。②6年次以上の教職員がメンターチームの指導にかかわることによってミドルリーダーの育成を進める。③情報端末機器の活用により情報を共有し会議時間の短縮を図るとともに、学校評価アンケートに電子申請や			人材育成・組織運営(働き方改革)	c10			
ブロック内評価後の気付き	ブロック内で共有した「9年間で育てたい子ども像」に基づき、ブロック内各々の主な行事についての情報を持ち寄り、それぞれのねらいや内容の系統性、統一性についてすり合わせたりした。これを受け、次年度からの本校における主な行事の見直しを図ることができた。また、ブロック授業研究会では、各教科に分かれた事後研究会を行い、それぞれの教科の視点から、どのように児童生徒の資質・能力の育成に迫るか意見を交換することができた。また、ブロック内で個別支援級の学習発表交流が実施され、それぞれの状況の共有と児童生徒の学びへの意欲付けが図られた。			ブロック内評価後の気付き				ブロック内評価後の気付き				
学校関係者評価	授業交流や個別級の発表交流等、小中が連携し交流を深めることでお互いにより効果がある。英語科の学習に向けて小中で協力する等、これからも連携した取組を考えていきたい。また、地域では、子どもたちにとって「ふるさと」と思えるまちづくりに向けた活動が進められ、子どもたちの主体的な参加も増えている。一方、地域の高齢化が進み、従来行われてきた地域とのかかわりが難しくなっている側面もある。今後、新しい目線で学校と地域のかかわりを見直す必要がある。また、学校の取組等の情報とともに、様々な災害への対応について、学校、PTA、地域がしっかりと情報を共有し、発信して			学校関係者評価				学校関係者評価				
中期取組目標振り返り	学校や家庭、地域のおよび課題を考えながら、新たに「まちとともに歩む学校づくり」を目指して取り組んできた。学習面では、生活科や総合的な学習の時間を中心に、積極的にまちの方々と関わり、主体的に学ぶ子どもたちの姿が見られるようになってきており、新たなつながりもできている。また、校内では、たてわり活動の導入により、子ども同士の豊かなかかわりのベースをつくることができた。今後、さらに工夫・改善しながら充実を図っていききたい。基礎・基本の定着については、引き続き課題として認識し、個に応じたいねいな指導を行っていく。			中期取組目標振り返り				中期取組目標振り返り				